秋山好古と習志野

~ 習志野原の変遷、騎兵連隊の躍進を中心に ~

山岸 良二

秋山 好古 年譜 (習志野市文化財審議会会長、東邦大学付属東邦中高等学校教諭)

101	hr: >	1 🗆		1 (智志對巾乂化財番議会会長、東邦人子的馬東邦	1 11	
年身		j	B	e a		
安政6年	1859	1月	78	伊予松山藩士・秋山久敬の三男に生まれる	1	
慶応2年	1866			藩校・明教館に学ぶ。武智愛山に入門	8	
明治元年	1868	3月	_	五男・真之誕生	10	
9年	1876	7月		大阪師範学校卒業、愛知県三等訓導拝命	18	
	-	SHOW THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NOT			19	
10年	1877	3月		東京予備教員西暦		
		5月		陸軍士官学校入学	21	
12年	1879	12月		陸軍士官学校騎兵科卒業、陸軍騎兵少尉	22	
13年	1880	7月		東京鎮台騎兵第一大隊小隊長		
				陸軍騎兵中尉、陸軍士官学校教官	25	
		4月		陸軍大学校入学	28	
19年	1886	4月		東京鎮台参謀		
6月			陸軍騎兵大尉			
20年	1887	7月		プランスへ留学		
24年	1891	12月		フランスより帰朝、騎兵第一大隊中隊長		
25年	1892	4月		士官学校馬術教官	34	
		11月		陸軍騎兵少佐、騎兵監副官		
26年	1893	4月		士族・佐久間正節の長女・多美子と結婚	35	
204	1000	5月		騎兵第一大隊長		
07/5	1004	8月		日清戦争勃発	36	
27年	1894	-			37	
28年	1895	1月		蓋平ほか各地に転戦 日本港 54.46世界日	31	
		4月		日清譜和条約調印	-	
		5月		陸軍騎兵中佐	-	
		6月		内地へ帰還	-	
29年	1896	8月		乗馬学校長	38	
30年	1897	10月		陸軍騎兵大佐		
31年	1898	10月		骑兵実施学校長		
33年	1900	7月		義和団事件征圧のため清国天津へ進駐		
34年	1901	5月		清国駐屯軍参謀長	43	
		7月		清国駐屯軍守備隊司令官		
		10月		清国駐屯軍司令官		
35年	1902	6月		陸軍少将	44	
-	-	4月	2 🗆	騎兵第一旅団長	45	
36年	1903		2 H	日露戦争勃発	46	
37年	1904	2月	-	出征(特利寺、蓋平、鞍山站、首山堡、遼陽、黒溝台戦)	1	
		5月			17	
38年	1905	2月		奉天会戦	47	
		3月		鉃嶺守備	-	
		9月	5日	日露講和条約調印	 	
39年	1906	2月	_	内地へ帰還	48	
42年	1909	8月		陸軍中将	51	
大正2年	1913	1月	15日	第一三師団長	55	
		4月		满州派遣		
4年	1915	2月	15 B	近衛師団長	57	
7-1-	2020	3月	1-1	満州より帰還		
5年	1916	8月	12日	朝鮮駐箚軍司令官	58	
27	1910		THE RESERVE AND ADDRESS OF THE PARTY AND ADDRE	陸軍大将	T	
	1017	11月	70日		59	
6年	AND ASSESSMENT OF THE PERSON NAMED IN COLUMN	8月		軍事参議官		
7年	STREET, SQUARE, SQUARE	2月		弟・真之 (海軍中将) 没		
9年		12月	28日	教育総監兼軍事参議官	6	
12年	1923	3月		予備役		
13年	1924			郷里松山の北予中学校長に就任		
昭和4年	1929	4月		退役		
	-	-		I II. TO A MALLO STORY	72	
5年	1930	3月		北予中学校長辞任		

「明治の軍制」

徴兵令 大村益次郎→山県有朋 1873[明治6]

参謀本部設置 1878[明治11]

『軍人勅諭』発布 1882[明治15]

1894[明治27]~95[明治28] 日清戦争

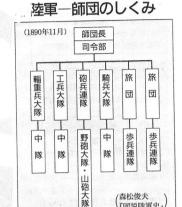
陸軍 6個師団増設 1896[明治29]

計 13個師団体制

1900[明治33] 北清事変 義和団の変

1904[明治37]~05[明治38] 日露戦争

薩摩=海軍 長州=陸軍



(森松俊夫 『図説陸軍史』)

第10 福知山(1898年) 第11 丸亀→善通寺(1898年) 审点(1888年) 第12 小倉(1898年) 第2 仙台(1888年) 高田(日露戦争で編成) 名古屋(1888年) 第3 大阪(1888年) 第14 宇都宮()) 第4 第15 豊橋(" 広島(1888年) 第5 京都()) 熊本(1888年) 第16 第17 岡山(1907年) 札幌→旭川(1896年) 第18 久留米(1907年) 弘前(1898年) 第 13・15・17・18 は, 1925 年の宇垣軍縮で廃止 金沢(1898年)

「明治時代のヨーロッパ」

・イギリス

先行する海軍型の帝国主義国家 墓末には「薩長側」に加担 新政府に影響力 「栄光ある孤立」非同盟主義

・ロシア

後発ながら陸軍型の帝政主義国家 ロマノフ王朝 皇帝=ツァー

「南下政策」先進列強国へ追いつけという焦燥感

清国との国境確定 「東方伸長策」

両国の対立激化 各地で戦端

クリミア戦争 1853~56

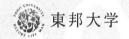
第2次アフガン戦争 1878~80

東邦大学



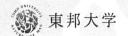
日清戦争へのみち

- 1871(明治4) 「日清修好条規」 国交回復 対等条約
- 1873(明治6) 明治六年の政変「征韓論」問題
- 西郷隆盛 × 大久保利通
- ・ 1874(明治7) 台湾出兵 琉球漁民殺害事件を契機に
 - 西郷従道指揮
- • 1875(明治8) 江華島事件 軍艦雲揚×朝鮮側砲台
 - 「日朝修好条規」不平等条約
- 当時の 李氏朝鮮(1392~1910)は「改革派×守旧派」の対立と
- 「親清国派×親日本派」という構図
- · · 1882(明治15) 壬午軍乱 王妃×王父 「済物捕条約」
- ・ 1884(明治17) 甲申事変 (親日本派 金玉均らのクーデタ失敗)
- 1885(明治18) 天津条約(日清関係再構築)
 - ① 両軍撤兵 ② 以後相互出兵通告



日清戦争の経過

- 1894(明治27) 朝鮮国内での「東学党の乱」
- ・ 朝鮮政府は鎮圧のため清国に出兵要請
- ・ 天津条約により 日本軍も出兵
- 7月 豊島沖海戦 東郷平八郎艦長「ナニワ」英国籍船
 - 整 沈 事 件
- 8月 宣戦布告 駐清国日本公使 小村寿太郎
- 9月 黄海海戦 定遠・鎮遠(アジア最大の軍艦)×三景艦
- ・ 1895(明治28)2月 威海衛の占領 清国北洋艦隊降伏
 - 丁提督自殺
 - 「下関条約」 遼東半島 大連・旅順割譲
 - →→三国干渉(露・独・仏) 「臥薪嘗胆」



第1軍

軍司令官:黑木為禎大将,参謀長:藤井茂太少将

近衛師団(東京/師団長:長谷川好道中将) 第2師団(仙台/師団長:西寛二郎中将) 第12師団(久留米/師団長:井上光中将)

第2軍

軍司令官: 奥保鞏大将, 参謀長: 落合豊三郎 少将 1904年5月27日発令

第3師団(名古屋/師団長:大島義昌中将) 第4師団(大阪/師団長:小川又次中将) 第5師団(広島/師団長:上田有沢中将) 野戦砲兵第1旅団(旅団長:内山小二郎少将)

騎兵第1旅団(旅団長:秋山好古少将)

(以下は1904年6月30日発令)

第6師団(熊本/師団長:大久保春野中将)

步兵第11旅団

歩兵第13連隊(歩兵3個大隊) 歩兵第45連隊(歩兵3個大隊)

歩兵第24旅団

歩兵第23連隊(歩兵3個大隊) 歩兵第48連隊(歩兵3個大隊)

騎兵第6連隊(騎兵3個中隊)

野戦砲兵第6連隊(砲兵2個大隊=6個中隊)

工兵第6大隊(工兵3個中隊)

師団輜重

後備歩兵第11旅団(旅団長:隠岐重節少将)

後備歩兵第12連隊(歩兵2個大隊) 後備歩兵第22連隊(歩兵2個大隊) 後備歩兵第43連隊(歩兵2個大隊)

第3軍

軍司令官:乃木希典大将,参謀長:伊地知幸 介少将 1904年6月30日発令

第1師団(東京/師団長:貞愛親王中将) 第9師団(金沢/師団長:大島久直中将)

步兵第6旅団

歩兵第7連隊(歩兵3個大隊)

歩兵第35連隊(歩兵3個大隊)

歩兵第18旅団

步兵第19連隊(歩兵3個大隊) 歩兵第36連隊(歩兵3個大隊)

騎兵第9連隊(騎兵3個中隊)

野戦砲兵第9連隊(砲兵2個大隊=6個中隊)

工兵第9大隊(工兵3個中隊)

師団輜重

第11師団(善通寺/師団長:土屋光春中将) 後備歩兵第1旅団(旅団長:友安治延少将)

後備歩兵第1連隊(歩兵2個大隊) 後備歩兵第15連隊(歩兵2個大隊) 後備歩兵第16連隊(歩兵2個大隊)

後備歩兵第4旅団(旅団長:竹内正朔策少将)

後備歩兵第8連隊(歩兵2個大隊) 後備歩兵第9連隊(歩兵2個大隊) 後備歩兵第38連隊(歩兵2個大隊)

野戦砲兵第2旅団(旅団長:大迫尚道少将)

野戦砲兵第16連隊(2個大隊=4個中隊) 野戦砲兵第17連隊(2個大隊=4個中隊) 野戦砲兵第18連隊(2個大隊=4個中隊) 弾薬大隊

後備工兵隊

第1師団後備工兵第1中隊 第3師団後備工兵第1中隊 第12師団後備工兵第1中隊

攻城砲兵司令部(司令官:豊島陽藏少将)

野戦重砲兵連隊(3個大隊=7個中隊) 徒歩砲兵第1連隊(2個大隊=8個中隊) 徒歩砲兵第2連隊(2個大隊=8個中隊) 徒歩砲兵第3連隊(2個大隊=8個中隊) 徒歩砲兵第1独立大隊(2個中隊)

第二軍

軍司令官:野津道貫大将,参謀長:上原勇作 少将 1904年6月30日発令

第5師団(広島/師団長:上田有沢中将) 第10師団(姫路/師団長:川村景明中将) 後備歩兵第10旅団(旅団長:門司和太郎少将)

後備歩兵第10連隊(歩兵2個大隊) 後備歩兵第20連隊(歩兵2個大隊) 後備歩兵第40連隊(歩兵2個大隊)

秋山好古と習志野

- ① 騎兵の専門官として名声があがっていた 日清戦争と日露戦争間に 1903 年 4 月 習志野第二代目「騎兵第 1 旅団長」拝命 その理由は?
- ②赴任直前 清国駐屯軍司令官からの栄転 現地邦人らの送別会で金時計贈呈を断り 現金を希望 その理由は?

「~~今から赴任する習志野も孤狸の棲む荒野でありますし、そんな高価な品(高級金時計)を頂戴してもどうかと思うが~~」

現金約700ドル→→→

③騎兵旅団長としての住居は 船橋市薬園台 借家 現在の洋服チェーン店 が対策でする。 「神工版でする」 「 」 庭の広い邸宅

薬園の由来・・江戸時代の享保年間 医者丹羽正伯 が幕命で「朝鮮人参」などを栽培したため

日露戦争の経過

1904年 2月両国「宣戦布告」

「日韓議定書」締結

旅順口閉塞作戦

5月 金州・南山の戦い

8月 黄海海戦

遼陽会戦 旅順攻擊開始

10月 沙河会戦 バルチック艦隊出発

1905年 1月 旅順 ロシア軍降伏

黒溝台の戦い

3月 奉天大会戦はじまる

5月 日本海海戦

7月 日本軍樺太占領

8月 ポーツマス講和会議

日露開戦時の日露陸軍戦力(1904年2月現在)

	歩 兵	騎 兵	火砲開	戦後の増加
日 本	13個師団 156個大隊	2個旅団	2個旅団 636門	4個師団 10個後備旅団
ロシア	1740大隊 うち極東 開戦時 90個大隊	1085個中隊 うち極東 開戦時 35個中隊	12,000門 うち極東 開戦時 172門	戦争末期の極東兵力 歩兵687個大隊 火砲2260門

出典:桑田悦・前原透共編著『日本の戦争 図解とデータ』(原書房, 1982 年)より作成

日露戦争時の秋山支隊

1904年 5月騎兵第1旅団配下 秋山支隊

第2軍(奥)の支配下

得利寺の戦い

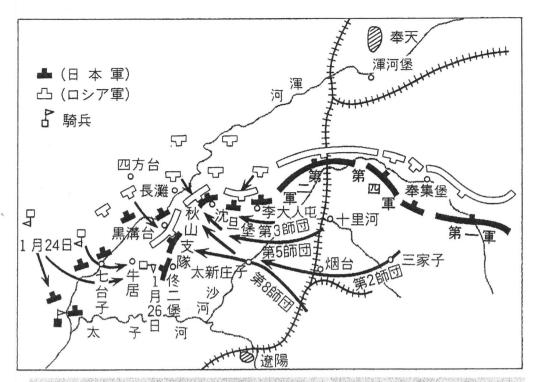
遼陽の戦い

1905年 1月黒溝台の戦い

「大変な激戦]

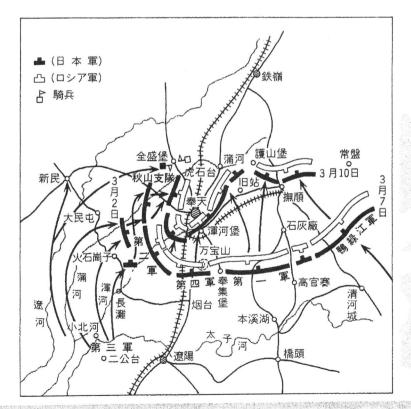
3月奉天会戦 誘導作戦の中心





日露戦争の激戦 黒溝台の戦い

学



日露戦争の最大激戦

奉天の戦い

》来邦大学